

## 校内研修推進計画

### 1 研究主題と主題設定の理由

#### (1) 研究主題

自信を持って生き生きと活動する子  
— 楽しいコミュニケーション活動を通して —

#### (2) 主題設定の理由

本校では、平成 17 年度から英語活動に取り組んできた。昨年度までの 4 年間の取り組みで、各学年に応じた題材を取り上げ、子どもたちが抵抗なく英語活動に取り組めるような工夫が重ねられてきた。また、研究授業を重ねていく中で、英語活動における担任の言葉かけや声の大きさ、表情など、各担任のそれぞれの個性を生かした様々な授業の工夫を見ることができた。これらの工夫は、他教科の授業でも生かされていく事柄である。安東フェスティバルでの英語集会(Kids Assembly)では、全校児童、保護者、地域の人たちなど、たくさんの人の前で精一杯がんばることができ、子どもたちにとって大きな刺激となった。

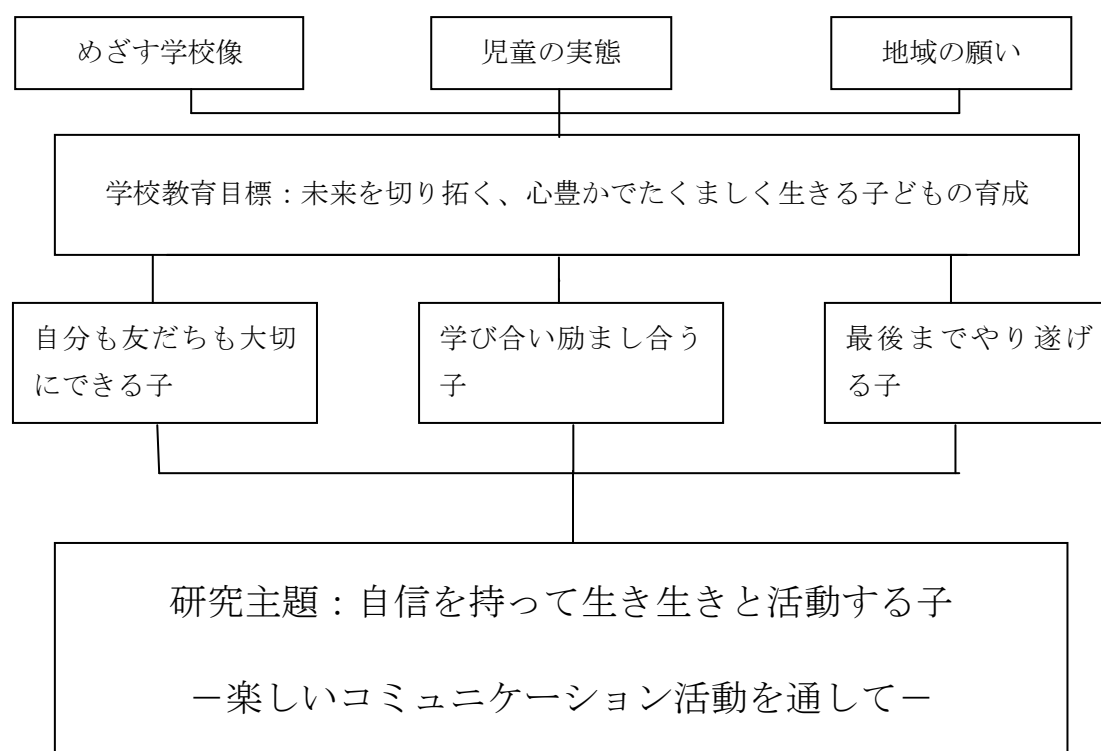
これらの取り組みを通して、子どもたちは、英語を繰り返し聞き、発話することで英語に自信を持ち、意欲的に活動できるようになってきた。特に英語を聞き分ける「耳」のよさ、ALT と臆せずコミュニケーションをとろうとする姿勢は、4 年間継続してきた取り組みの成果といえる。

しかし、英語活動のなかで自然にあいさつができるようになっている子どもたちも、日常生活のなかではなかなかあいさつができない。さらに、集会などの場で子どもたちの様子を見てみると、きちんと人の話を聞く力が育っていないということが感じられることもしばしばあるのが現状である。

また、平成 23 年度から完全実施される新学習指導要領では、各教科・領域で「言語活動」が重視されており、このことは本校の子どもたちが持つ課題と重なり合う。

このような経緯を踏まえ、本年度は「自信を持って生き生きと活動する子 —楽しいコミュニケーション活動を通して— 」を主題として、研究していくこととした。英語活動を継続し、子どもたちに自分の考えや思いを伝え、コミュニケーションを図ることの楽しさや、言葉や体などを使って表現することの楽しさを味わわせ、自信を持って表現できる児童を育みたい。その上で、子どもたちの現状をふまえ、英語活動で培った力をどのように各教科・領域や日常生活に活かしていくか、研修を深めていきたい。

## 2 研究の構想



研究でめざす子ども像	
低学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちに進んで関わろうとする。</li> <li>・自分の思っていることを話したり、友だちの話すことを最後まで聞いたりする。</li> </ul>
中学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分から進んで活動に参加することができる。</li> <li>・友だちの話をよく聞いて、自分の考えを話すことができる。</li> </ul>
高学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちと協力しながら、生き生きと活動することができる。</li> <li>・様々な方法で、自分の考えや思いを自信を持って表現することができる。</li> </ul>
あんとう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明るく元気に、のびのび活動する。</li> <li>・自分の思いや考えを相手に伝えることができる。</li> </ul>

## 3 コミュニケーション活動のねらい

- 授業におけるねらい
- 児童会活動等、学校生活全般におけるねらい
- 英語活動におけるねらい

学年部のねらい	
低学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進んで話したり聞いたりする態度を身につける。</li> <li>・友だちと仲良く活動に参加する。</li> <li>・英語の時間を楽しみ、ALT や友だちと英語で触れ合う。</li> </ul>
中学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いのルールを守り、進んで授業に参加しようとする。</li> <li>・話をよく聞いて、活動に参加する。</li> <li>・英語のゲームや会話などを通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする。</li> </ul>
高学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的や意図に応じ、適切に話したり聞いたりすることができる。</li> <li>・学校のリーダーとしての自覚を持ち、自分の思いをはっきりと述べることができる。</li> <li>・英語の表現に慣れ親しみ、身近なことや自分のことを聞いたり話したりできる。</li> </ul>
あんとう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人の話をよく聞き、自分の言いたいことを進んで伝えようとする。</li> <li>・友達の話すことやすることをよく見聞きして、進んで活動に参加する。</li> <li>・英語の歌や表現に親しみ、のびのびと活動する。</li> </ul>

## 4 具体的な研修の柱

## (1) 各教科・領域で育てるコミュニケーション

子どもたちが学校生活の中心となるのは「授業」である。そこで、日々の授業の中で、子どもたちのコミュニケーション力を高めるような取り組みをおこなう。コミュニケーションを意識した授業だけではなく、あいさつなど日常のコミュニケーションの方法や、話を聞くときのマナーなども繰り返し指導していく。

## (2) 楽しい英語活動

## ・楽しいコミュニケーション活動の具体化

楽しい英語活動のなかで、smile, eye contact, clear voice, big voice 等の態度を意識させたり、Thank you. / You are welcome. Here you are. / Thank you. 等の人と関わる上での大切な言葉を口に出して言わせたりしていく。英語を使って繰り返し聞いたり話したりすることで、コミュニケーションの基礎を身につけさせていきたい。

## ・発達段階に応じた題材構成の工夫

児童の発達段階や興味・関心をよく把握して、題材や活動計画を考えることで、子どもたちの意欲・態度が大きく高まるであろうと考える。カリキュラムは、平成 20 年度の実践をもとに、旧担任で資料を作成した。5, 6 年については 1 学期のカリキュラムを、1～4 年については主な表現や単語などをまとめた資料である。それを参考にしながら、今年度の担任が授業を計画し進めていく。また、高学年については、「英語ノート」も使用できる教材のひとつとして計画する。

・担任一人で行う英語活動

昨年度までは、すべての英語活動を ALT とともに行ってきた。しかし、新学習指導要領で「外国語活動」が完全実施されると、ALT がいなくても、高学年では年間 3 5 時間の英語活動を行うこととなる。今まで行ってきた英語活動をもとに、担任一人で行う英語活動についても研修する。

・A-タイムと SST メソッド

朝の始業前の 10 分間を「ANTO」の「A」をとって「A-タイム」と名付けている。この時間は、「SST メソッド」を行う時間とする。「SST メソッド」は、「SOUND（音）を SHOWER（シャワー）のように浴びせる TECHNIQUE（技術・方法）」という意味で、兵庫県の「まねび学園」（境山哲夫氏）において開発されたものであり、全児童がテキスト教材を持ち、使用する。

（3）児童会活動等の活性化

児童会と連携して、児童集会、各委員活動、縦割り活動などの機会を利用し、英語活動で培った表現力やコミュニケーション力を活かす場としていく。また、その他のいろいろな行事のめあてに、「コミュニケーション活動」に関わるめあてを入れ、行事後に反省する。

（4）発表の機会

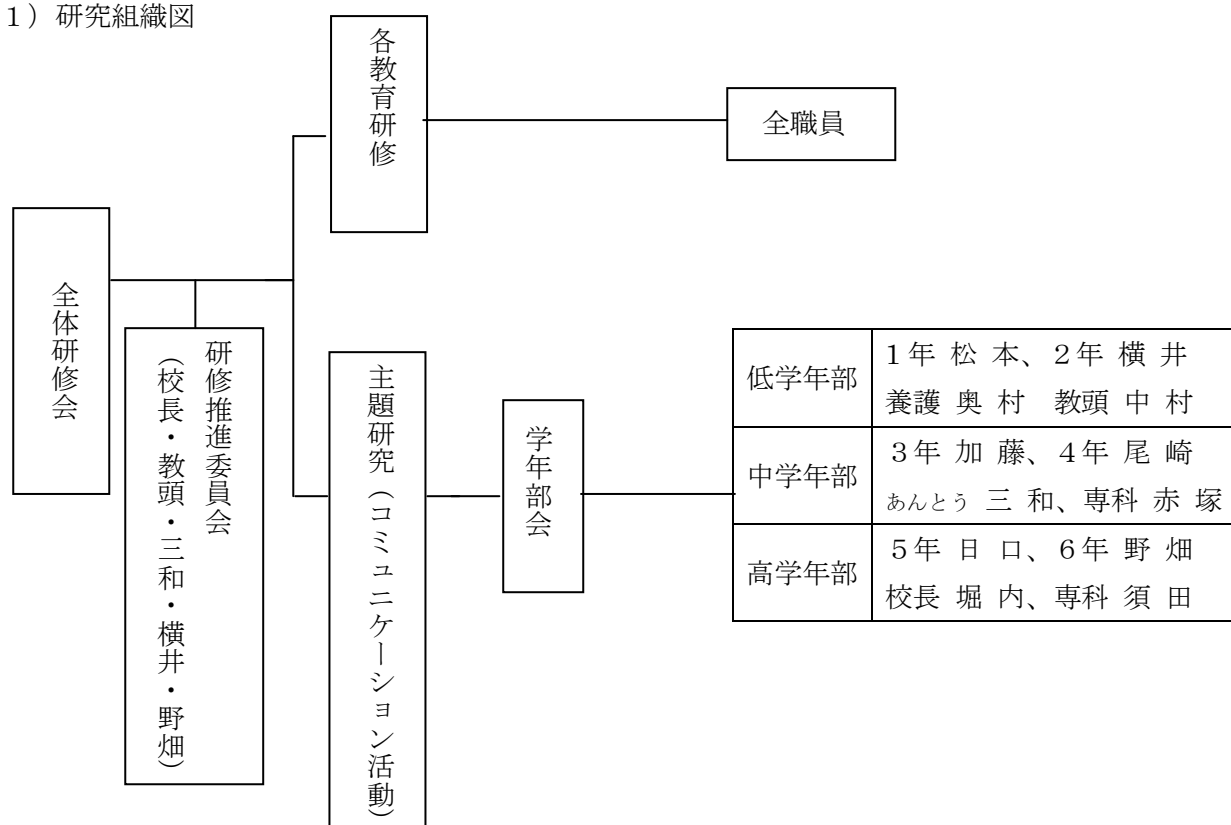
安東フェスティバルの Kids Assembly では、各学年に応じて、コミュニケーション活動に関する発表を行う。全校児童、保護者をはじめ、地域の人にも広く発表する場となる。子どもに満足感を与え、今後の活動に自信が持てるよう、十分に準備、計画する。

（5）その他の教育について

コミュニケーション活動だけでなく、様々な教育活動が充実するために、各教育担当が年間計画を立て、研修委員会で日程等の調整をして研修をすすめていく。

## 5 研究組織

## (1) 研究組織図



## (2) はたらき

- ・ 研修推進委員会  
研修の企画・立案・調整・まとめを行い、全体研修会に提案する。
- ・ 各教育研修  
各担当が企画・立案し、全体研修会に提案する。
- ・ 全体研修会  
研修推進委員会で企画・立案されたものを審議・修正し、決定する。  
また、全職員の共通理解の場として、授業研究や意見交換、現職教育に関わる発表・報告の場とする。
- ・ 学年部研修会  
必要に応じ集まり、教材研究、教具開発、授業研究など具体的な活動を行う。
- ・ 学年研修  
教材研究、教具開発、授業研究など具体的な活動を行う。
- ・ 毎月、第1・2・4週の水曜日は、原則的に研修会と位置付ける。